



東国文化の活用・発信

東国文化を単なる「発信」に止めることなく、その価値や魅力を「創造」し、ブランド化していく。
平成29年度の夏頃にユネスコ「世界の記憶」への登録が見込まれる上野三碑が持つ世界的な価値を発信する。
東国文化の周知に、県と市町村、地域の人々、企業、専門家、ボランティア等が幅広く連携・協力して取り組む。

< 総額 117,907千円 >

東国文化のストーリーをつくり、古墳や遺跡を結びつける。
「子ども達や地域の人々」と「古墳や遺跡」と「未来」を結ぶ。

(文化振興課)

1 東国文化周知

[21,886千円]

○古墳・遺跡価値再発見プロジェクトの実施(新規)

所在市町村と連携し、地域の子どもと大人と一緒に価値を再発見できるような体験型プログラムを提供

「遺跡復元体験プログラム」「古墳・埴輪王国ぐんまプログラム」ほか

○東国文化副読本の制作・配布・販売

○古代東国文化サミットの開催



2 上野三碑世界記憶遺産 登録推進・発信事業

[11,640千円]

登録記念イベントの開催(新規)

東京、高崎の2会場で著名人を交えての登録記念シンポジウムの開催、地元高崎市での登録記念イベント、多胡碑の書としての価値をテーマに日中書道展を開催 など

○上野三碑世界記憶遺産登録推進協議会の運営 県内複数箇所での講演会、サポーター向け研修会等

3 歴史博物館 グランドオープン

[54,047千円]

グランドオープンに向けた常設展示整備

・東国古墳文化展示室で綿貫観音山古墳出土の国指定重要文化財の展示 [5,802千円]

グランドオープン

記念企画展示(9/30~11/26)

「黒井峯遺跡と群れる馬(仮)」等

[48,245千円]

東国文化の中心地として栄えた証である古墳や遺跡を調査・研究・整備し
成果を発信する。

(文化財保護課)

1 古墳情報の発信

[7,776千円]

群馬県はかつて東国文化の中心地として栄え、数多くの古墳や遺跡、貴重な遺物が現代まで伝えられている。
こうした魅力を県内外に広く周知するため、古墳総合調査の成果も活用し、情報発信を行う。

○古墳データベースの作成(新規)

○古墳情報発信のためのスマホ用アプリの作成(新規)



綿貫観音山古墳

2 金井東裏遺跡出土 甲着裝人骨等調査

[10,311千円]

渋川市金井東裏遺跡は、甲を着装した人骨等の出土で県内外から注目されている遺跡である。その遺跡から出土した甲や人骨のレプリカを展示・公開することにより、東国文化の注目度を高める。

展示、公開に向けた1号甲の安定台の制作

○3号人骨(首飾りの古墳人)のレプリカ制作

3 上野国分寺跡整備

[12,247千円]

かつて全国最大級の七重塔を擁した、全国に誇りうる史跡である上野国分寺跡の価値を広く県民に周知し、再認識を促すとともに、多くの人に訪れてもらえる史跡にする。

総括報告書の刊行、シンポジウムの開催